

# 『こうちょうしつから こんにちは』



平成26年3月4日

文責 青森市立萺町小学校

校長 木村 文江



もう3月ですね。あっという間の1年間。

2月25日の参観日には、たくさんの保護者の皆様にお越しいただき、誠にありがとうございました。各学級の授業や懇談等を通して、子どもたちの成長の様子をお伝えできたものでしょうか？先生方とゆっくりお話できましたでしょうか？何かありましたら、いつでも気軽にお話してください。

さて、2月20、21日、1年生と2・3年生の学級担任である丹羽先生と川浪先生に、どうしても参加してほしい研究会がありましたので、東京へ出張してもらいました。二人の先生方は20日の朝一番で発ち、21日の研究会が終わると同時に帰りの途につくという強行スケジュールでした。

本校の職員数で、一度に2人の教員を出張させるのには、授業の補充者等を考えると容易なことではありません。よっぽどの覚悟と全教職員の協力がが必要です。当日は、教職員全員でフル回転でした。

そんな中、私もほんの少しだけ、お手伝いにかかせていただきました。さて、子どもたちはといたしますと……。



「朝の会」の前の「読書の時間」から1年生の教室に行ってみると、教師用の机の上には、四角いケースが4つ並んでいました。『連絡袋』、『宿題プリント』、『音読カード』、『一人勉強』が、それぞれのケースにきちんと入れられています。そして、当たり前のように読書が始まりました。入学以来、いろんなことを子どもたち自身ができるように育てられてきたのですね。

1時間目は、算数のプリント学習。3枚のプリントが終わったら、3色の折り紙を決められた形に切って、それを使いながら自由に形づくりをするというものでした。自分で考えた図形は、3枚目のプリントの裏に貼り付けていきます。当然、作業の早い子も遅い子も出てきます。(時間内にできない子がいても、仕方がない。)と思っていたのですが、1時間目と2時間目の準備の5分間で、何と、一人残らず当然のような顔をして提出してしまったのです。不思議でした。『次の時間に持ち越さない。やることはやる』ということが、身につけているのだと感心しました。

そして、2日目の給食の時間のことです。

子どもたちは、しっかり食べながらも、話したり、聞いたりができるのです。特定の子だけが話すのではなく、みんなが当たり前楽しくお話しできるのです。ギャーギャー騒ぐわけでもなく、誰かが話しているときにその話を取ってしまうこともなく、穏やかにはっきりとした口調で会話がちゃんと進んでいくのです。(なんか、いいなあ。みんな、仲間なんだなあ。)と感じられ、うれしくなりました。



裏面に続く

2・3年生には、2日目の朝読書の時間から、1時間目までお邪魔させてもらいました。

「朝の会」での歌声の何と素晴らしかったことか！声のきれいさや音程の確かさに加えて、ボリュームがあります。男の子の声も女の子の声も美しく、それがびんびん響いてくるのです。以前、『美しい声は、楽器と同じだ』と、お聞きしたことがありますが、なるほど、こういうことなんだと、実感させられました。



そして、1時間目は、3枚のプリント学習、国語です。1枚書き終わるごとに、私のところに来て丸を付けてもらい、間違えたところをきちんと直してから次のプリントへ進みます。間違いを指摘しても、素直にやり直すことができる子どもたちでした。

1時間目の終わりの時刻が近づくとともにプリントにもどんどん丸が付いていきます。どうやら、全員終わることができそうです。そして、最後の1人が最後の直しを完了！と思った瞬間、よく見ると、間違っ隣りの解答欄を消して、そこに答えを書いてしまっていたのです。プリントのやり残し、たった1人だけ、それもたった1問。おいしい！A君、おいしい！

でも、2時間目の保健学習の時間が近づいていたので、あわてさせてもいけないと思い、終わりの挨拶を済ませ、やり終えたプリントと教師の机の上にいつも通りに提出されていた『一人勉強』を持って教室を出ました。

はて、さて、このままにしておくべきか、それとも直させてさっぱりさせるべきか。校長室で、各自のプリントを3枚まとめてホチキスで綴じながら、日ごろの川浪学級の様子を思い浮かべてみました。（その日に直すのを基本としていたはず、声を掛けても大丈夫だ！）と確信しました。

昼休み、プリントと一人勉強を抱え校長室の扉を開けると、不思議です。A君とばったり会いました。なんという偶然でしょう。用件を手短かに言い、「直す？」ときくと「はい！」と明るい声が返ってきました。これもまた、『直すのがあたりまえ』に育てられてきたからだと思います。

A君と2・3年生の教室に向かう途中、階段で2年生のB君と出会ったので、「一人勉強、丸付けておいたからね。」と声を掛けました。すると、B君は、「あっ、僕、今日、出していません。」と、すまなさそうな顔をして言いました。「いいよ、いいよ、そんな日もあるよ。」と話し、そのまま上の階へ向かいました。正直者ですね、言わなければ、やってこなかったなんて、知られずにすんだのかもしれないのに。それに、担任の先生がいない2日目だったので、やるのかどうかわからなかったかもしれません。

A君は、教室に着くと、あっという間にプリントを直してしまいました。ついでに、A君へ、「プリント、2枚しかないんだけど……。」と聞くと、「あっ、僕、持っています。」と、すぐに出してくれました。そして、他の子のそれと同じようにA君自身が3枚をホチキスでとめて、一件落着！



この2日間で、私が学級へおじゃました時間なんて、教頭先生や養護教諭の先生方に比べたらほんの少しです。それでもたくさんの出来事がありました。ここにご紹介させていただいたのは、そのほんの一部です。本当に可愛い子どもたちと、しっかり育てている先生たちです。毎日、学級ではいろいろな出来事があり、それをみんなで解決しているのですね。